

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1111 2012年10月号

「秋期緑の街頭募金」活動

10月6日、公益社団法人高知県森と緑の会主催で秋期緑の街頭募金活動が高知市内で行われました。（詳細は2頁）



緑の募金にご協力を（中央、新木局長）



緑の少年団も活躍

献するばかりでなく、森林・林業の重要性に対する理解や関心を深める意義深い活動であり、多くの市民の皆様のご協力をいただけるよう取り組んで参りましょう。」との激励があり、帯

九月二二日、高知県梼原町の鷹取山植物群落保護林において「きのこ観察ツアー」を実施しました。公募により、二二名が参加、講師は、局が登録する「森の達人」の「きのこ達人」荒尾正剛氏に依頼しまし

た。当日は朝から天候も良く、バスの中では、森と木の話や「きのこ」の話を聞き、予備知識をつけました。現地では、「きのこ達人」から注意事項などの説明があり、準備運動などしてか

同じルートを狭い範囲で歩いて、二二名の目で観察すると、さすがに各ペアが「きのこ」の入った袋を持って下山して来るこ

とが出来ました。

昼食後、参加者が採取した「きのこ」を種類毎に広

恒例の「秋期緑の街頭募金」が一〇月六日、「緑の募金でふせごう地球温暖化」をスローガンに、公益社団法人高知県森と緑の会主催で高知市の中央公園及び帯

屋町筋で行われました。出発式で新木局長から「豊かな森林資源を守り、将来にわたって活用していくことが重要で、緑の募金活動は、地球環境に貢



屋町筋では、参加者と新木局長からの「緑の募金に協力をお願いします」の大きなかけ声が道行く人々に響き渡りました。

当日は、秋らしい爽やかな日と、中央公園で行われている都市緑化祭と相まって、街は普段以上の人通りで、子供から年配の方

まで、募金の呼びかけに応えていただき、多くの浄財が寄せられました。秋の募金活動は、一〇月三一日まで実施され、皆さまからいただいた募金は水源の森づくりや緑の少年団の育成、国際緑化事業など様々な事業に活用されることとなっています。

な日と、中央公園で行われている都市緑化祭と相まって、街は普段以上の人通りで、子供から年配の方

ととなつています。当日は、秋らしい爽やかな日と、中央公園で行われている都市緑化祭と相まって、街は普段以上の人通りで、子供から年配の方

私たちはスタッフは、今回の「きのこ観察ツアー」では、一個体のサンプルも採取出来ないのでは無いかと心配しながら、二人一組のペアで、歩道より少し幅を広くした箇所を観察範囲として、来た道を下山し、観察と標本採取をすることとしました。



げ、「きのこ達人」に同定して貰い、個々の種類についての特徴や、食用の可否及び毒性について説明を受けました。



「きのこ達人」による同定作業

採取量を心配しましたが、結果的に四〇種類の種類に判別することができました。また、その中で食べられる「きのこ」は一割から二割程度でした。参加者からは、「保護林の散策や、「きのこ」観察は、初めてで、さらに講師

の方のガイド付きだったので大変勉強になり、登山もとても楽しかった。」などの声も聞かれました。また、テレビ局の取材班の同行もあり、国有林の紹介も出来て、有意義な一日でした。ご協力頂いた「きのこ達人」荒尾様に感謝いたします。



達人による「きのこの説明」

各地のたより

校庭で樹木学習

〈ふれあいセンター〉

九月一日、高知県黒潮町立上川口小学校の四年生八名を対象に、森林教室を開きました。

まず、屋内で広葉樹と針葉樹の違いや単葉と複葉の特徴、葉のつき方など基礎知識を学び、その後、校庭に出て、自分たちの学校に植えられている樹木について観察しながら学習しました。いつも目にしていない木々であっても知らないことが多いらしく、「アキニレ」の葉は左右不相称であるとか、「ソテツ」は枯れそう



樹木学習の様子



最後に、自分たちが学んだ樹木の樹名板を作成しました。紅葉したり、色鮮やかな花が咲く樹木は人気が高く、希望が叶わなかった子は、残念そうな顔でしたが、ほぼ全員が二枚ずつ作成しました。

板からはみ出るほどの大胆な構図で描く子、外では元氣いっぱいなのに繊細なタッチで描く子、それぞれの個性が溢れた作品となりました。



樹木名板

空飛ぶ種子

〈ふれあいセンター〉

九月二五日、四万十市立中筋小学校の一年生から四年生二一名を対象に、森林教室を行いました。今回初めて低学年に「空飛ぶ種子」を実施するに当たり、理解してもらえるか不安もありましたが、最初に、「樹木はどうやって種をまくでしょうか」との質問に、低学年の男の子が「風を利用する」と、川口自然再生指導官もビックリの答えが返ってきました。その後、スライドと種子の実物を観察しながら、植物は子孫を残すため「風を利用する」、「動物を利用する」、「水を利用する」、「自分の力ではじき飛ばす、転がる」など



高く飛べ(ロケットラワン)

について、学習しました。次に、アルソミトラの種子の模型作り。これは、インドネシアなどの熱帯に生えるウリ科のツル植物で、ラグビーボールほどの実が熟すと下部が割れ、種子がグライダーのように遠くへ飛んでいきます。スレンチシートに型紙を重ねて上からマジック等で型取りして切り出しますが、一年生には難しく、職員の手助けで模型が完成。さらに色紙を

使って、ニワウルシ、マツ、ラワンの種子の模型を作り、最後にスレンチシートでロケットラワンの種子の模型を作りました。色々な種子の観察や種子の模型を製作し飛ばす体験をすることで、低学年にも理解しやすく楽しい学習になりました。

森林土壌に関する

総合学習

〈ふれあいセンター〉



土壌生物の観察中

九月二七日、愛媛県松野町立松野西小学校の四年生二四名を対象に、「土壌にすむ生物」と「森林のはたらき」について出前授業を行いました。

松野西小学校の四年生は、「総合的な学習の時間」を利用して年六回森林に関する学習をしており、当センターが授業を行っています。今回は実験が多かったのですが、出前授業も四回目となると、子どもたちもすっかり打ち解け、元気いっぱい積極的に参加してくれました。

まず、「土壌にすむ生物」の講義では、土壌層の違いや土壌生物の種類とその役割について学びました。

一ヶ月ほど前に埋めておいた「野菜」、「枯葉」、「ペットボトル、空き缶など」がどのように変化しているかを確認すると、「野菜」が完全分解されて土に変わっていることに驚き、土壌生物の役割を実感したようでした。一方、「ペットボトル」などは全く変化しておらず、ゴミを捨てないことの大切さも感じる事ができたようでした。

土壌生物の観察では、予想に反して気味悪がる子どもは一人もおらず、時間を忘れて顕微鏡を覗き込んでいました。普段遊んでいる校庭の隅に、こんなにも知らない生物が住んでいることに驚いているようでした。

続いて「森林のはたらき」の講義では、森林の持つ七

つの機能を学習し、森林が土砂の流出や山崩れを防ぐ様子を模型を使って実験しました。

「森林がある山」は、木や落ち葉が土壌を雨から守り、土砂や家の模型が流れ落とされることはほとんどありませんでしたが、「森林のない山」では、見る見るうちに土壌が流され、家の模型もあつという間に転げ落ちました。

家の模型が流されるたび、子どもたちからざわめきが起こり、土がはがれて底板が見えるまでになった。「森林のない山」の模型と、ほとんど変化のない「森林のある山」の模型を見比べて、森林の持つ山崩れを防ぐ機能に感心しきっていました。

今回も森林の働きの重要

性について、楽しみながら十分に理解してもらおうことができ一安心でした。



「森林のはたらき」

ボランティアとニホンジカ食害対策を実施

〈徳島森林管理署〉

一〇月一四日、高知県境の白髪避難小屋付近の国有林(三嶺国有林三二イ及び三二イ林小班)で、「三嶺

の自然を守る会」(暮石理事長)が募集したボランティア二二名の協力をいただき、ニホンジカの食害を防ぐための樹木ガードを設置しました。

高知県側では高知中部森林管理署と「三嶺の森をまもるみんなの会」(依光代表)が連携して、広範囲で植生回復ボランティア活動を実施しましたが、この日は、徳島県側でも企画したもので、当署からも四名がサポートスタッフとして参加しました。

当日は、三嶺林道の終点を九時半に出発し、一端四ツ小屋谷に下って徒歩し、ニホンジカ食害で下層植生が失われ登山道が判然としない尾根を、約二時間歩いて白髪避難小屋まで直登しました。

昼食後、参加者は三名ずつの八グループに分かれて、樹木ガードの設置作業を行いました。この付近は、ニホンジカ被害が顕著なウラジロモミは先行して保護されているため、この日はダケカンバなど広葉樹を主体に保護を行いました。

尾根に、クマザサやススキの植生が戻りつつあることは、これまでの地道な取り組みの成果ではないかと考えられます。しかし、尾根の両側の林縁部はモミなどの白骨林となっており、今後も継続的にニホンジカ対策を講じる必要性があります。

短時間の作業ではありませんでしたが、一一樹種、総計二四六本の樹木に樹木ガードを取り付けることができました。厳しい生育環境下にあるこれらの樹木ですが、今後一〇年以上はニホンジカの食害を免れることができます。

周辺はすっかり秋の気配で、ススキの白い穂が風に揺れていましたが、一時期はクマザサが衰退してニホンジカが食べないバイケイソウやイグサばかりだった

作業場所からは、高知県側の多数のメンバーが、ニホンジカ除けネット作業など行っている力やハゲが遠望できましたが、帰りは登り以上に厳しいため、一四時には帰途につきました。山麓でも、かつて繁茂していたスズタケが失われ、モミやリョウブ、ヒメシヤラなどがあちこちで食害を受けており、ニホンジカ被害の深刻さを参加者は改めて認識し

たようでした。

今回の活動について、資材及び作業道具の便宜を図っていただいた高知中部森林管理署に改めて御礼を申し上げます。

当署としては、今後とも、ボランティアなどの理解と協力をいただきながら、こうしたニホンジカ食害対策に積極的に取り組んでいく考えです。



ニホンジカによる食害状況説明

木材利用の「WOOD キャラバン」を実施

〈徳島森林管理署〉

一〇月九日、当署も参加して、木材利用促進を要請する「WOODキャラバン」を実施しました。

一〇月の「木づかい推進月間」に合わせて、徳島県も一〇月を「森林・木材利用促進月間」と設定し、イベントの開催や各種の取り組みを行っています。W OODキャラバンはこの一環として、広く木材利用を呼びかけるものです。

これまでは、主に市町村の首長に対して要請行動を行ってきましたが、公共建築物木材利用促進法に基づく木材利用方針が、全国に先駆けて全市町村で策定さ

れたことを踏まえ、木材利用の裾野を広げるために、今回初めて大学とフェリー会社を訪れることとしたものです。

まず、一〇時から徳島県庁正面前で県幹部や関係者が出席して出発式が開催され、激励や決意表明が行われ、当署の二名を含む一人名のキャラバン隊は、三台の車に分乗して出発しました。

訪れた四国大学と徳島文理大学は、いずれも地元の私学で、木材をシンボリックに使っていただき、若い学生たちが木材の良さに触れることができるよう、学長ら幹部に対して要請を行いました。最後に、訪れたオーシャントランスフェリーは、徳島を経由して東京、北九州を結んでいます

徳島文理大学への要請



が、近々、新しい大型フェリーの建造と乗客ターミナルの新築が予定されているため、木材利用の積極的な検討を要請しました。

キャラバンを終えて、国や県は木材利用について多くの施策を講じていますが、民間セクターにはこうした施策がよく理解されていないのではないかというのが率直な感想ですが、「森

林・林業再生プラン」の展開によって川上から国産材が出てくる体制が整いつつある中で、木材利用促進を図ることは極めて重要です。当署としても、森林土木事業などで自ら木材を利用することはもとより、こうした機会を捉えて、木材利用促進の取組に積極的に協力したいと考えています。

森林教室

〈木工クラフト〉を実施

〈徳島森林管理署〉

九月一二日、徳島市立川内南小学校で、児童九三名（小学四・五年生）、を対象とした森林教室（木工クラフト）を行いました。

当署では、前期と後期に分け公募により森林教室を

実施してはいますが、今回の森林教室は前期分七回のうちの第六回目で、川内南小学校から「森林と私たちのくらしの結びつきを学習できる森林教室をお願いしたい。」という内容で依頼を受けて実施したものです。

最初に、森林の働きについて説明を行い、DVD「木材を使って地球を救う」により学習を行いました。森林の役割が私たちの生活に

どのように結びついているのか、水や空気をきれいにする働きや、山崩れ・崖崩れを防止する働きなど、森林の大切さについて理解を深めてもらいました。子供達はメモをとりながら真剣に話を聞いていました。

木工クラブでは、「マイ箸」を作りました。材料は徳島県産のスギ間伐材を

使用し、紙やすりで削り、くるみの油を塗って仕上げます。子供達は、木を削った粉で真っ白になりながらも、楽しそうに取り組んでいました。

当署では、森林の公益的機能や木材利用についての理解を深めてもらうため、地域や学校等の要望に応えつつ、今後とも計画的に森林環境教育を実施していきたいと考えています。



森林の働きについて説明

「ウッドライフフェスティバル」に参加

〈香川森林管理事務所〉

一〇月六日、七日の両日、高松市のサンメッセ香川において、「二〇一二ウッドライフフェスティバル」が開催されました。このイベントは、

木材（国産材）の利用推進を目的に、木材関係団体等が各種の催しや即売会を実施するもので、当所も毎年参加しており、今年度で第二五回目を迎えました。

当所では、つるかご編み教室とシイタケの菌打ち体験、木工教室を行いました。

つるかご編み教室は、例年盛況であり、今年度も大人を中心に多数の参加者が集まって、様々な形のつる

かごを完成させていました。

また、シイタケの菌打ち体験では、菌打ち用のドリルでほだ木に穴をあけ、ハンマーで菌の駒を打ち付ける体験を行い、菌を打ち付けたほだ木は参加者にプレゼントしました。

さらに、木工教室では、たくさんの子供たちが輪切りにした細木、ボンド、マジックを使い、ウサギ、犬、コアラといったかわいい動物の置物を作って喜んでいました。

これら教室等とともに、香川の国有林を紹介するパネルも展示し、参加者に対して国有林のPRもできたとおもいます。

今後もこのようなイベントを通じて、森林や国産材の利用について関心

を持ってもらえたらと考えています。



手前が木工教室、後方がつるかご編み教室の様子

